

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 折 田 暁 尚 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第1684号 |
| 学位授与の日付 | 平成10年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |
| 学位論文題目 | 側頭葉てんかんにおける周嗅領皮質(perirhinal cortex) の役割—キンドリングネコを用いた実験的研究— |
| 論文審査委員 | 教授 庄盛 敏康 教授 岡 錠次 教授 小川 紀雄 |

学位論文内容の要旨

近年周嗅領皮質 (perirhinal cortex : PRC) と呼ばれる部位が、キンドリング発作の二次性全般化に重要な部位として注目されてきている。今回我々はネコを用いて、扁桃核キンドリングにおけるPRCの脳波活動を観察し、さらにPRCを一次刺激部位としたキンドリングを行い、その発展形式を観察した。扁桃核キンドリングでは早期よりPRCに後発射が出現し、発作全般化に際して反対側半球ではPRCで後発射が最も早期から出現した。キンドリング完成後の発作間歇期放電(IID)には4つの出現形式がみられたが、全ての出現形式でIIDが観察されたのはPRCのみであった。一方、PRC一次キンドリングの発作症状と後発射の観察では、海馬、新皮質、扁桃核の順に発展する様式がみられ、新皮質キンドリングの発展に類似したが、完成キンドリングの安定性などは辺縁系キンドリングの性質に一致した。これらの結果より、PRCはその辺縁系と新皮質への密接な関係から、キンドリング発作の二次性全般化に重要な役割を持つことが考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は実験てんかんについて神経生理学的に研究したものであるが、ネコにおけるキンドリング現象を指標にして扁桃核てんかん原性焦点の発展形式を調べたところ、周嗅領皮質がペースメーカー的役割を有している可能性がある、という側頭葉てんかんの神経機構を理解する上で非常に重要な所見を得たものであると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。